



わ 和



第 14 号 (平成 19 年秋冬号)

編集：大阪市立総合医療センター 広報委員会
(〒534-0021 大阪市都島区都島本通 2-13-22)

病理医の存在をご存知ですか？

病理部部长
井上 健



大阪市立総合医療センターには病理部があり、私はそこで日々病理診断に携わっている病理医です。欧米では病理医の存在は、一般市民の方々にも広く浸透しているようですが、残念ながら日本では必ずしもそうではないようです。

例えば胃カメラで癌の可能性のある部分が見つかったとしましょう。その部分から胃粘膜の組織を一部採取して顕微鏡で詳しく調べることとなりますが、それは内視鏡医や外科医が行っているとお思いではありませんか？

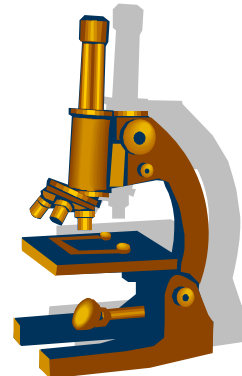
内視鏡医や外科医は外来では、「検査結果が出るのに数日かかりますが、次回診察の際に結果をお伝えします」と伝えて次回診察の予約をとるでしょう。実はその裏には、病理医が組織標本を顕微鏡で観察しながら診断を下し、病理診断報告書といった形で、各主治医のもとに結果をお伝えしています。外科医はメスを片手に手術を行うこと、

消化器内科医は内視鏡や超音波によって診断、治療を行うことが重要な業務であるのと同様に、病理医は顕微鏡を道具として、最終診断ともいべき病理診断を行うことが主たる業務です。

病理診断には上記のように、病変部から採取した小さい組織片を診断するほか、手術によって切除された組織から、どのような病変がどの程度進展しているかなどを顕微鏡で確認します。

また、場合によっては手術中に採取された組織を即座に検査し診断します〔術中迅速(じんそく)組織診断〕。採取から約 15 分程度で結果が病理医から執刀医に連絡され、手術方針が決定されます。そのほかに、痰や尿、子宮の入り口部を綿棒でふき取ったものなどの中含まれている細胞を顕微鏡で観察し、がん細胞が混じっていないかどうかを調べたりしますが、これは病理部に所属する細胞検査士という資格をもつ検査技師と共同作業のもとで診断します。組織や細胞の採取は、外科医や内科医、婦人科医などの臨床医が行いますが、採取された組織や細胞の標本を顕微鏡で観察して診断するのが病理医の役割です。

ある意味では臨床医は刑事に似ています。というのは臨床医は悪の根源となる犯人(病変部)を捜し出し、証拠(組織や細胞)となるものを採取したあと犯人を逮捕します。では病理医は何に例えられるかといえば、裁判官に似ているともいえるでしょう。提出された証拠(組織や細胞)を念



入りに調べあげ、中立的な立場で判決（病理診断）を下します。仮に臨床医が誤って犯人を逮捕したとしても不起訴処分になったり、裁判所で無罪放免ということもありえますが、病理医が誤ると冤罪（えんざい）事件となってしまう、場合によっては取り返しがつかないことになりかねません。このような冤罪事件を生み出さないようにするため、法曹の世界と異なり医療の現場では、臨床医（刑事）と病理医（裁判官）の密な連携が必須ともいえるでしょう。そのための各種カンファレンス等にも病理医は重要な役割を担っています。

このように病理医は、病棟でも外来でもない病院の一角で、お目にかかることのない患者さんのことを考えながら、迅速で正確な病理診断を下すべく、日々黙々と顕微鏡にむかっています。

大阪の新生児医療体制

新生児科部長
いちば ひろゆき
市場 博幸



昔からお産は病気ではないと言われてきましたがそのとおりで、生き物の一つである人間にとって妊娠、分娩や新生児の出生はごく自然な出来事です。そこで正常な妊娠、分娩や新生児の出生に対しては医療の関わりを必要最小限にして、もっと自然で暖か味のある方法で手助けするのが良いと考えられるようになってきました。

一方、新生児をとりまく環境は母親の胎内と胎外では大きく変化します。新生児はこの劇的な環境の変化にうまく適応しなければならず、それだけに新生児期は人生の中で最も危険に満ちた時期であるとも言えます。したがって医学的な問題が発生することも多く、すべての新生児の約5%に特別な医学的な治療が必要になります。

このような治療は、保育器や新生児用人工呼吸器をはじめとする新生児専用の医療機器や、新生児のケアに精通した多くの医師や看護師を配した新生児集中治療病床（NICU）で行われます。しかし、たった5%の児のためにお産を扱っているすべての施設にNICUを設置しようとする、人的にも経済的にもたいへんな無駄を生じることになります。そこで、NICUを有する施設が一定の地域の治療が必要なすべての新生児を収容することにして、もしNICUのない施設で治療を必要とする新生児が出生した場合にはNICUのある施設へ転送しよう（新生児搬送）という考え方で新生児医療体制は整備されてきました。最近では、お腹にいる赤ちゃんが生まれたあとにNICUでの治療が必要になることが予測される場合には、生まれる前に母親をNICUのある施設の産科へ転送することが主流になっています（母体搬送）。

現在、厚生労働省は人口100万人あたりに1ヶ所の総合周産期母子医療センターと数ヶ所の地域周産期母子医療センターを設置する計画を全国ですすめています。総合周産期母子医療センターでは重症の新生児や妊婦さんの治療を行い、地域周産期母子医療センターでは中等症の新生児や妊婦さんの治療を行います。

合理的で先を読む事の得意な大阪人は、なんと30年前から既にこの様な考え方で大阪の新生児医療体制を整備してきました。大阪では新生児医療に熱心な病院が新生児診療相互援助システム（NMCS）という組織を作り、お互いが協力して大阪の新生児医療を支えてきたのです。その結果、現在、総合周産期母子医療センターに相当する6ヶ所のNMCS基幹病院と地域周産期母子医療センターに相当する22ヶ所のNMCS協力病院とが協力して、大阪で出生したすべての治療を必要とする新生児に対して適切な医療を供給することができています。



かかりつけ医をお持ちください

かかりつけ医とは、家庭の日常的な診療や健康管理をしてくれる身近なお医者さんのことで、ホームドクターとも呼ばれています。

みなさんが、風邪などの日常的な病気にかかったとき、身体の不調やちょっとした症状が気になるなど、気軽に診察していただける「いつもの診療所（医院）」が、かかりつけ医であり、当院ではかかりつけ医との医療連携を推進しています。

かかりつけ医を持つことの利点は？

なぜ、かかりつけ医が必要なのでしょう。それには次のような利点があるからです。

患者さんの病状・病歴・健康状態等の把握ができるので、いざというときの判断を任せることができます。

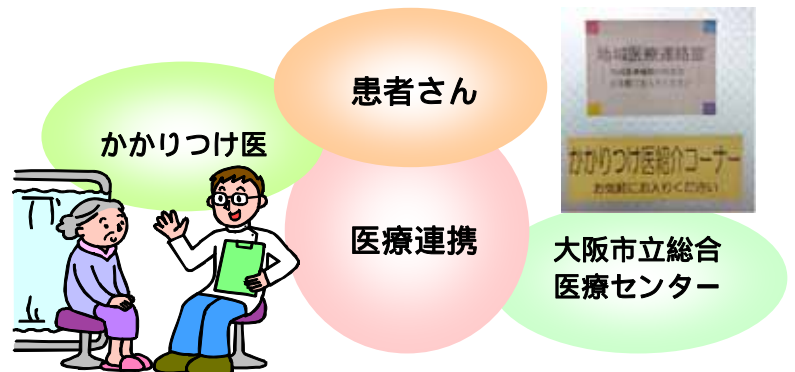
高度な専門診療を要する場合、病状にあわせた適切な専門医を紹介していただけます。かかりつけ医から紹介があれば、初診でも、外来診察の予約を事前にとることができます。

かかりつけ医から当院での受診をすすめられましたときは、「紹介状(診療情報提供書)」をお持ちください。「紹介状(診療情報提供書)」をお持ちの患者さんは、初診時の特定療養費(当院では1,570円)が免除されます。

紹介状をお持ちいただくと、患者さんの経過、検査結果、お薬などの情報が得られ、適切な診療ができます。

患者さんの状態により、往診をお願いすることができます。

かかりつけ医をお持ちでない患者さんには、医療連携担当でも地域の先生をご紹介させていただきますので、1階の「かかりつけ医紹介コーナー」までお越しください。



インフルエンザワクチンを接種しましょう

インフルエンザが流行する季節が近づきました。インフルエンザの予防の基本は、流行前に予防接種を受けることです。これは世界的にも認められている最も有効な予防法です。インフルエンザは空気中に拡散されたウィルスによって感染しますから、感染予防のためには、人込みは避けましょう。また、常日ごろから十分な栄養や休息をとることも大事です。インフルエンザ感染の広がりには空気の乾燥が関連しています。室内では加湿器などを使って加湿しましょう。外出時のマスクや帰宅時のうがい、手洗いは、普通のかぜの予防と併せておすすめします。

当院では10月15日より予約を始めました。

接種回数	成人1回・小児2回			
受付場所	医療相談窓口			
費用				
成人	3,870円	小児	6歳未満	3,400円
小児	6歳以上	2,870円	法定分	1,000円
問合せ先	医療相談窓口	06-6929-1221	(代)	

法律で定められたインフルエンザの予防接種の対象者は、大阪市民で下記のとおりです。

1. 65歳以上
 2. 60歳以上65歳未満の方で、身障1級相当(心臓・じん臓・呼吸器・ヒ免疫不全ウイルスによる免疫の機能障害)に該当
- 詳しくは医療相談窓口までお問合せ下さい

健康フェスタ 2007 ~ご参加をお待ちしています~

テーマ “ 病気とうまくつきあい 自分らしく生きる ”

会場 大阪市立総合医療センター 3階 さくらホール

1日目 12月14日(金)【参加無料・申込不要】	2日目 12月15日(土)【参加無料・申込要】
とき 午前10時～午後4時 相談コーナー(お薬・栄養・看護など) パネル展示(中央放射線部・中央臨床検査部等) パフォーマンスショー 出演 池田たかし、イトウ・シノブ フルートアンサンブルによるミニコンサート 出演 イリア・ミュージックアンサンブル	とき 午後2時～午後4時 市民医学講座(手話通訳あり) 講座「まさか、自分が・・・」がんと言われても！ 講師 大阪市立総合医療センター 臨床腫瘍科副部長 進 藤 喜 予 講座「車イスからの出発(たびだち)」 特別講師 エッセイスト 鈴木 ひとみ パネル展示(中央放射線部・中央臨床検査部等)

【12月15日(土)の申し込み方法】

往復ハガキでお申し込みください。(住所・氏名・年齢・電話番号を明記 1枚で3名まで可能)

締め切りは 11月30日(金) / 定員350名 (応募多数の場合は抽選)

あて先・問合せ 〒534-0021 大阪市都島区都島本通2-13-22

大阪市立総合医療センター 医事担当

電話06-6929-1221(代表)

当院の一品 【じゃがいも饅頭】



(作り方)

じゃがいもは適当な大きさに切り、やわらかくなるまで茹でる(または蒸す)。熱いうちに裏ごし、砂糖、塩、卵白を加えて混ぜ合わせ、片栗粉を加えて丸められる固さに調整し、4つに分ける。

南瓜も同様にやわらかくなるまで茹でる(または蒸す)。裏ごし、ガーゼなどでしぼり、水気を切っておく。

鶏皮なしミンチとみじん切りしておいた玉葱を炒め、砂糖、しょうゆを加えてさらに炒める。火を止めてザルに移して汁気を切る。荒熱がとれたら 南瓜と混ぜ合わせる。

を4つに分けて丸め、 のじゃがいもで包み込む。

を160～170 の油で揚げる。箸で触って表面がカリッとなれば網にとり、油を切っておく。(油で揚げずに蒸しても良い。)

大根おろしにみりん、うすくち、だし汁を加えて煮、水溶き片栗粉でとろみをつけてみぞれあんを作る。

を器に盛り、 のみぞれあんをかける。

(材料).....4人分	
じゃがいも	200g
砂糖	大さじ1と1/3
塩	小さじ1/4
卵白	1/2個分
片栗粉	大さじ1/2
南瓜(皮をむいて)	40g
鶏皮なしミンチ	40g
玉葱	40g
砂糖	大さじ1/2
しょうゆ	小さじ1/2
揚げ油	適量
大根	200g
みりん	小さじ1/2
うすくち	大さじ1/2
片栗粉	大さじ1/2
だし汁	適量